

旅館はオワコンなのか

森記念財団研究員

脇本敬治

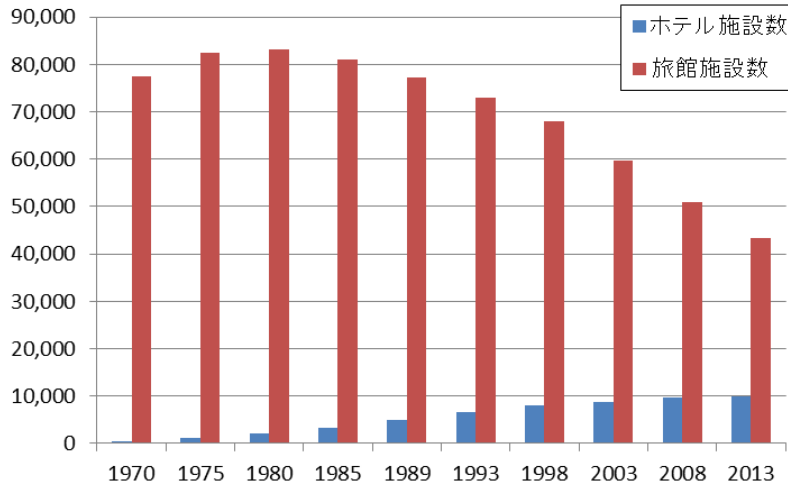
旅行に出かけるなら、あなたは旅館とホテルのどちらを選ぶだろうか。名前だけでホテルなのか旅館なのかが分かりにくい場合もあるが、同じ宿泊施設といっても、出自が異なる。旅館は長い歴史の中で日本人の宿泊施設として連綿と続いてきたものである。一方のホテルは幕末の築地のホテルが先駆けとされ、来日外国人の宿泊施設として明治以降徐々に増えていったものである。ホテルは1964年の東京オリンピックを契機にして高度経済成長期に順調に数を伸ばし、現在では客室数では旅館よりも多くなっている。大まかに言うと、畳の部屋があり、布団で眠るという日本の生活様式を基本としているものが旅館。欧米の生活、つまり客室の中まで靴で入り、ベッドで眠るのがホテルである。



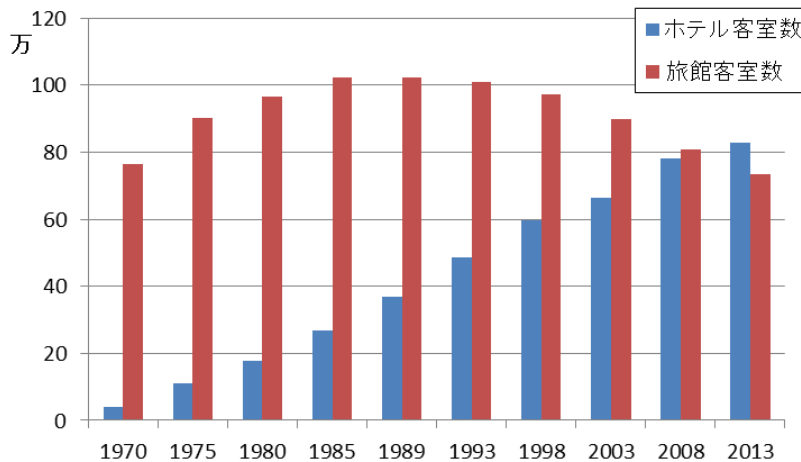
旅館の客室 (Wikipedia 663highland)

東日本大震災以降に老舗旅館が倒産したというニュースを聞くようになった気がする。とくに地方の大型旅館の場合は経済に深刻な影響を与えるので全国ニュースになることもある。旅館の現状はどの様になっているのだろうか。旅館の施設数の推移を1970年からみると、1980年から旅館数は減少し始め、2013年には80年の52%まで減少している。また客室数は1990年代から減り始め、2013年にはホテル客室

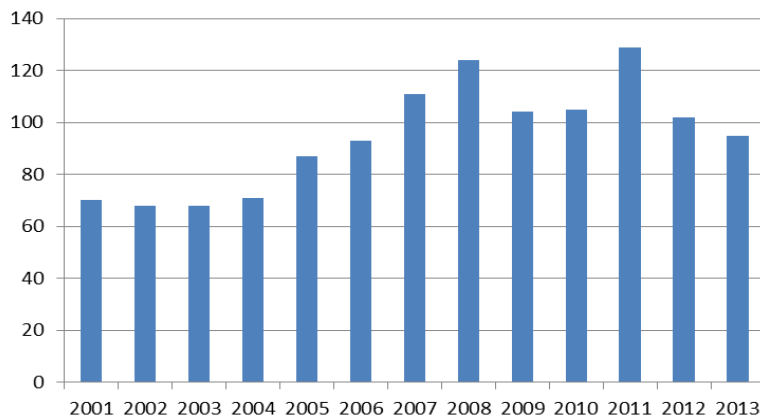
数よりも少なくなっている。ホテルは旅館よりも大規模なものが多いため、客室数では旅館を上回ることになる。帝国データバンクのホテル・旅館経営者の倒産動向調査によると、2001年以降では大震災のあった2011年に倒産件数が最も多く、次いでリーマンショックのあった2008年となっている。旅館は施設、部屋数ともに1980年代から減少を続け、近年は大震災や不況の影響を受け減少傾向は続いている。



旅館とホテルの施設数（厚生労働省「衛生行政報告例」より作成）



旅館とホテルの客室数（厚生労働省「衛生行政報告例」より作成）



ホテル・旅館経営者の倒産数（帝国データバンク「ホテル・旅館経営者の倒産動向調査」より作成）

このところ分の悪い旅館だが、それほど魅力のないものなのだろうか。大きな浴場でリラックスでき、和室の畳の部屋でくつろげる旅館は捨てたものではないと思う。とくに湯上りの素足に気持ちの良い畳の感触は何物にも代えがたい。日本で西欧的な生活習慣が広まる一方で、日本人にとっては旅館に残された伝統的なライフスタイルの良い部分が改めて評価されるのではないかと思う。さらに急増している海外からの観光客にとっては、旅館は伝統的な日本の文化が残されている場として、そして日本のライフスタイルを一度に体験できる場としてますます注目されることが予想される。玄関で靴を預けることから始まり、畳の部屋に上がること、布団で寝ることは日本でしかできない体験だ。禅に興味のある人は、畳の上で座禅を試みることもできる。客室で出されるお茶とお菓子も目新しいだろう。日本の着物に興味があり浴衣を着てみたいと思ったら、旅館こそ訪れる場所だ。最近はいろいろな浴衣を選ぶことのできる旅館もある。そして、多くの人と裸の交流ができる温泉や大浴場での入浴は、おそらく最もエキサイティングな体験となるだろう。温泉を持つところでは、湯によって肌がつるつるする感じ、露天風呂がある所では解放感など、旅館ごとの楽しみ方がある。人前で裸になることは少し勇気を要するかもしれないが、それを差し置いても大きな湯船の中でゆったりと身体を湯に任せる心地よさは感動的だ。食事も無形文化遺産となった和食の本格的な会席料理が出される。和食の素材は地元の旬な食材が選ばれるので、その土地ごとの料理のバリエーションを楽しむことができる。最近は大広間での食事が多くなってきたが、部屋までお膳を運んでくれ、そこで食事ができる伝統的な旅館もある。旅館が提供する上げ膳据え膳は、宿泊者を日常生活から解放してくれる最も贅沢なおもてなしである。



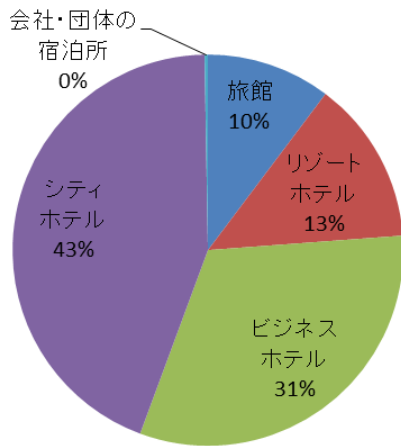
部屋で供される食事



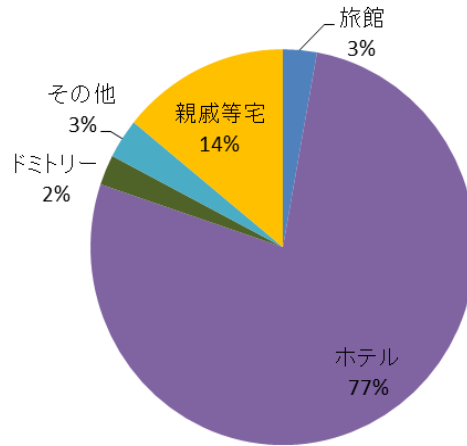
温泉 (s-hoshino.com)

問題はこのような旅館の良さが知られていない、とくに海外の旅行者に知られていないことだろう。2014年の調査によると、全国の宿泊施設を利用した外国人のうち旅館に宿泊した割合は10%しかなかった。外国人の宿泊施設の利用は、シティホテルが最も多く43%、次いでビジネスホテルが31%となっている。外国人旅行者は宿泊施設の他に親戚宅、友人宅に宿泊することもあるので、実際の旅館の利用率はさらに

低い。2010年の森記念財団の調査で外国人旅行者の日本滞在中の宿泊場所を問うたところ、旅館と答えた人は3%と驚くほど低かった。せっかく日本にまで来て旅館を体験しないのは、もったいないことだと思う。

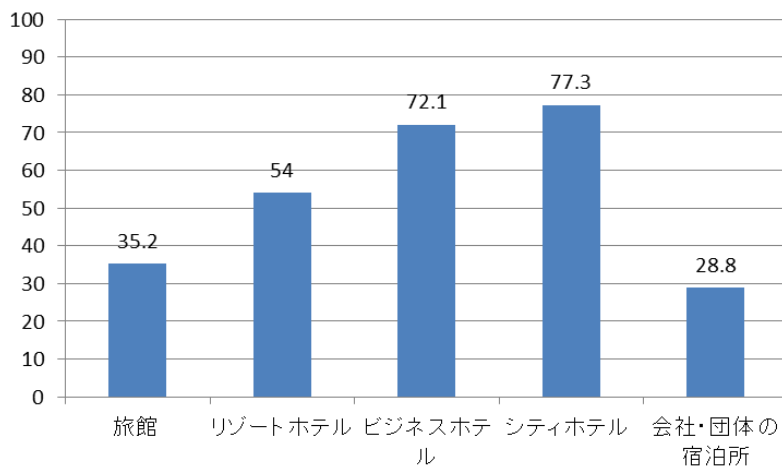


外国人の宿泊施設利用状況 2014年
(観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成)



外国人旅行者の宿泊場所 2010年
(森記念財団『東京のブランドカ』より作成)

2014年の旅館の客室稼働率をみると35.2%とシティホテルの77.3%、ビジネスホテルの72.1%に比べ非常に低い。旅館は現在のところ日本人の利用がほとんどのため、週末やゴールデンウィークなどの特定の日利用が集中し、平日は空いていることが多いためではないだろうか。外国人の宿泊先はホテルという先入観が明治以来強かったと思うが、旅館をもっと海外からの旅行者にアピールすべきだと思う。英語での対応ができるようにし、ネット予約やカード決済の利用などを進め、海外からの旅行者をうまく取り込めば、平日の稼働率を上げることに繋がるかもしれない。ただし、一方で海外には日本の旅館におけるマナーもまた、よく知られていないことを忘れてはいけないだろう。無用な混乱を避けるためにも、旅館の良さと共に日本のルールとマナーも同時に伝えることも非常に重要なことだと思う。その点に気を付ければ、旅館は十分魅力的な存在だと思う。



宿泊施設の客室稼働率 2014年 (観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成)